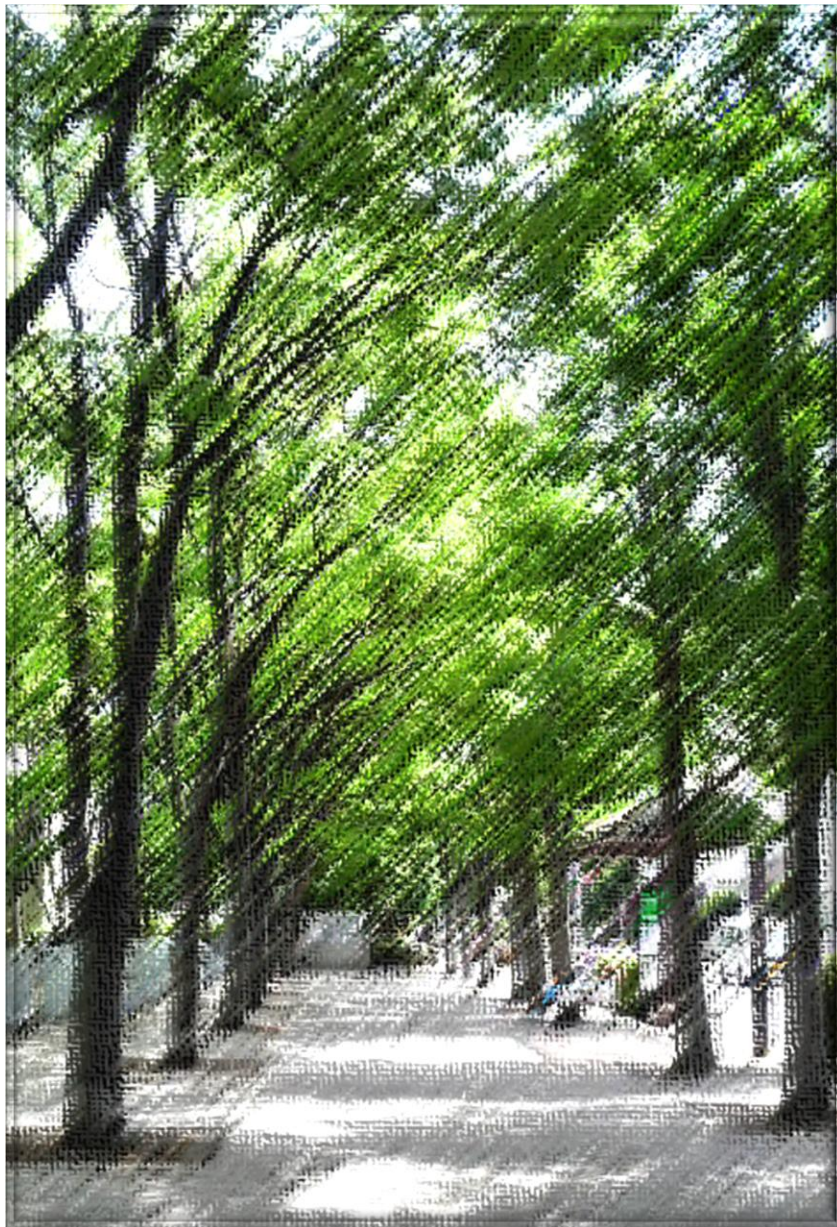




東京都立大学大学院

人間健康科学研究科人間健康科学専攻 理学療法科学域 研究案内

首都大学東京は、2020年4月1日に大学名称を東京都立大学に変更しました。



Department of Physical Therapy, Graduate School of Human Health Sciences
Tokyo Metropolitan University

人間健康科学研究科で育成する人材像

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っています。とくに、首都大学東京の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつです。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われています。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指します。

理学療法科学域の特色

今日、保健・医療・福祉の領域では、高度な理学療法専門的能力を備えた高度専門職業人の必要性が高まっています。本研究科理学療法科学域では障がい者（児）から高齢者まで幅広い研究分野を設置し、様々な理学療法課題に応えられる臨床家、教育者および研究者の育成を目指しています。

そこで身体機能回復理学療法学、運動障害分析理学療法学、地域理学療法学の研究分野を設け、それぞれに博士前期課程および博士後期課程を設置しました。

また昼夜開講制を採用し、理学療法士などの医療職としての臨床経験を蓄積しながら、研究を進めることができ、臨床と研究の有機的展開を図ることが可能となっています。

アドミッションポリシー

博士前期課程

理学療法学の高度専門知識の習得と技術の向上を目的に最新知見を教授し、専門職の発展に向けて創造的・科学的思考に基づき、自律した行動能力を持つ高度実践専門家や教育・研究者の養成を目指します。

博士後期課程

博士前期課程の分野での学習・研究をさらに発展させ、大学や研究所、企業などで自律的に研究できる人材を養成することを目的としています。

理学療法科学域 教育研究の柱

運動障害分析
理学療法学分野

身体機能回復
理学療法学分野

地域
理学療法学分野

徒手理学療法学コース（修士）

分野共通(必修科目)

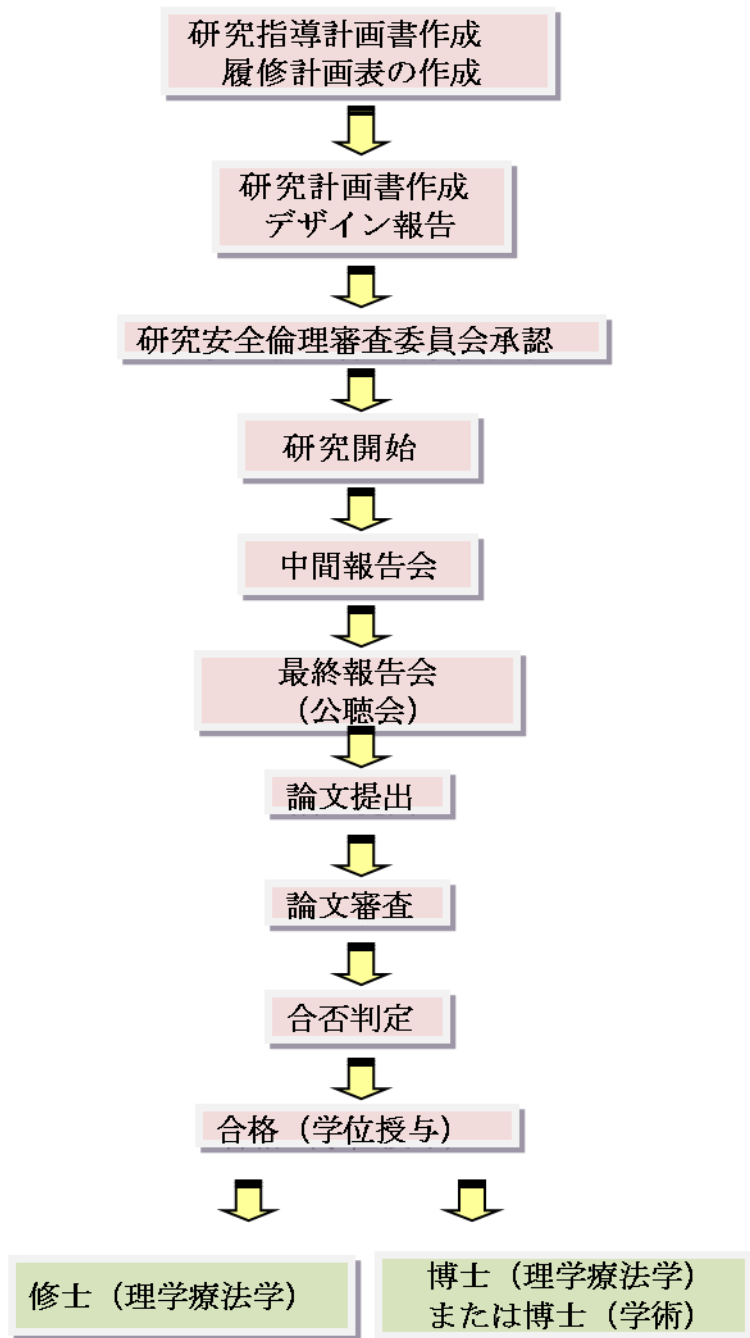
○博士前期課程（修士）

理学療法科学特別研究
理学療法管理学特論
理学療法学研究法特論

○博士後期課程（博士）

理学療法科学特別研究

特別研究(修士・博士論文)
指導過程



運動障害分析 理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

発達障害理学療法学特論

発達障害理学療法学特論演習

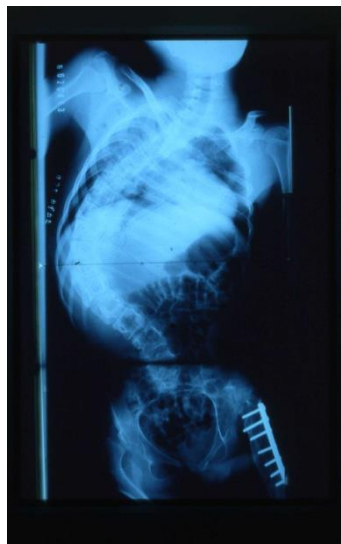
○博士後期課程（博士）

発達障害理学療法学特講

発達障害理学療法学特講演習

発達障害理学療法学 新田研究室

発達運動障害理学療法領域では、脳性麻痺、二分脊椎など広義の発達障害に関するあらゆる問題と、疾患にこだわらず人の運動発達に関することがらを研究テーマとして取り上げる。人の運動機能は生まれながらに完成しているものではない。出生時運動機能は未熟であり、頭部のコントロールもできない。出生後約2年間に運動機能は急速に変化し、成人とほぼ同様の機能を獲得する発達障害は何らかの疾患により、機能獲得が正常発達から逸脱した状態であり、派生する問題点は多岐にわたる。これらの疾患に関する研究は、予後予測、加齢変化、合併症、さらに理学療法効果など様々な視点で行われている。また疾患にこだわらない運動発達に関する研究もこれまで多くなされている。本研究領域では広くこれらの研究を行っている。研究手法は筋電図、三次元動作解析装置、fMRIなどの解析装置を使用した実験、大規模調査データをもとにした多変量解析などを行う。



脳性麻痺児の脊柱側彎

運動障害分析 理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

障害予防理学療法学特論

障害予防理学療法学特論演習

○博士後期課程（博士）

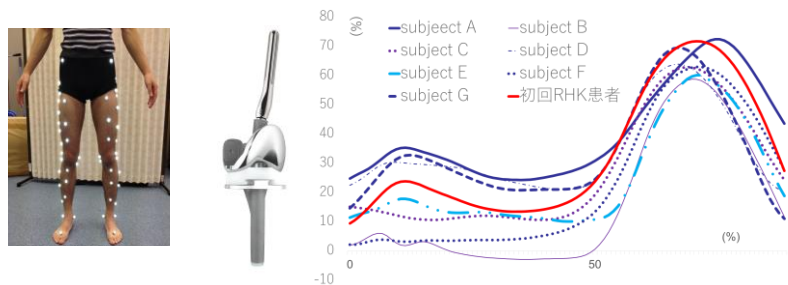
障害予防理学療法学特講

障害予防理学療法学特講演習

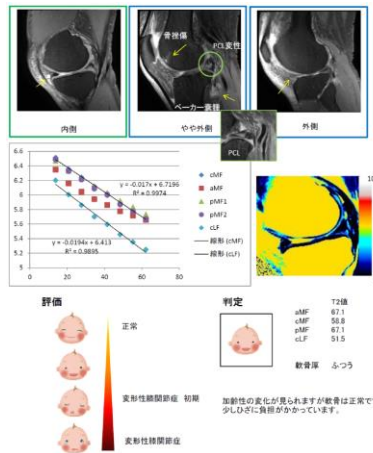
障害予防理学療法学 山田研究室

障害予防理学療法学では、高齢期の介護予防・認知症予防や健康増進、ならびに生活習慣病を含む内部障害や運動器障害に対する理学療法を予防の視点から研究をしている。

介護予防、内部障害の臨床的研究の他、超音波診断装置、MRI（磁気共鳴画像）の機器や三次元動作解析装置を用いたバイオメカニクス的研究により予防プログラムの開発・有効性の検証をしている。

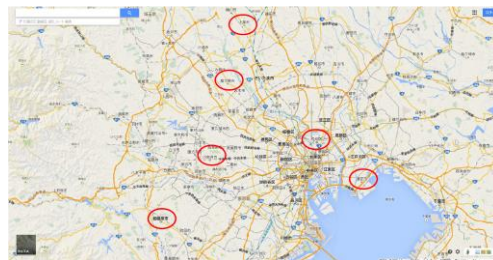


人工膝関節の歩行解析（タイプによる違いの検討）



MRI 軟膏評価 通常画像と

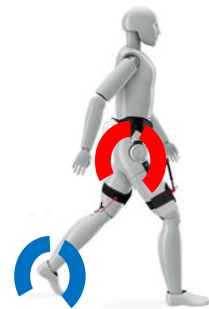
T2 マッピング



介護予防事業 関東地区連携自治体



介護予防・転倒予防運動プログラム
荒川ころばん体操の開発



Honda Walking Assist の臨床研究

研究室所属院生の論文発表 2019

○【整形外科診療における最先端技術】診断、評価 動的評価 三次元動作解析装置を用いた point cluster technique とその臨床応用, 大見 武弘 他 別冊整形外科 (0287-1645)75 号 ○基本動作に介助を要する急性期脳卒中患者における肺炎合併の予測因子の検討, 國枝 洋太 他, 理学療法科学 34 巻 3 号 Page325-330(2019.06) ○Comparison of foot kinetics and kinematics during gait initiation between young and elderly participants, Yoshinao satoh 他, The Journal of Physical Therapy Science 31, 498-503, 2019 ○入院時 National Institutes of Health Stroke Scale の下位項目による急性期脳卒中患者の肺炎合併予測因子の検討. 國枝洋太 他, 日本保健科学学会誌, 2020(in press)

研究室所属院生の学会発表 2019

○Activation of the Motor Cortex during Surface Interferential Current Therapy for Urinary Incontinence using Functional Near-Infrared Spectroscopy, Takagi Mineko, 他, The World Confederation for Physical Therapy 2019, ジュネーブ (スイス), 5月10-13, 2019 ○Assessment of muscle density index with multi-frequency bioelectrical impedance analysis: Relationship between aging and one leg standing time, Shibata Shota, 他 The World Confederation for Physical Therapy 2019, ジュネーブ (スイス), 5月10-13, 2019 ○Influence of Insoles on Healthy Young Women's Foot Motion and Knee Adduction Moment During Walking, Junpei Katoh 他, 13th the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM), Kobe, Japan, 2019年6月9日～6月13日 ○Biomechanical gait analysis for a hip disarticulation prosthetic- power source for the swing phase of a hip disarticulation prosthetic limb - Tsukasa Kaguchi, 他, 13th the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM), Kobe, Japan, 2019年6月9日～6月13日 ○Association of difficulty in descending stairs with age and sex group in patients underwent total knee arthroplasty, Tazawa Tomohiro 他, 13th the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM), Kobe, Japan, 2019年6月9a日～6月13日 ○Relationship between foot and ankle function and immediate effect of the Honda Walking Assist device in hemiplegic stroke patients, Yoshinao Satoh 他, 13th the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM), Kobe, Japan, 2019年6月9日～6月13日

○ローテーティングヒンジ型人工膝関節を用いた再置換術後患者の立脚初期における歩行解析. 大見武弘 他, 第50回日本人工関節学会 2020年2月22日 福岡 ○片側人工股関節全置換術後患者における歩行中の関節間力と非術側股関節最小関節裂隙幅の関連 田澤智央 他, 第50回日本人工関節学会 福岡 2020/2/21-22 ○年齢別の地域在住高齢者における運動と認知課題の二重課題トレーニングが認知機能変化に及ぼす効果, 國枝 洋太 他, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine (1881-3526)56 巻秋季特別号 Page S466(2019.10) 第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2019.11.17(静岡)

○脳血流 SPECT を用いた健忘型軽度認知障害の脳血流分布の特徴, 國枝 洋太 他, Dementia Japan (1342-646X)33 巻 4 号 Page554(2019.10) 第38回日本認知症学会学術集会, 2019.11.8(東京) ○右人工膝関節全置換術後ゆるみに対して再置換術を施行された一症例における歩行解析 再置換の術前と術後6ヵ月の縦断的調査, 田澤 智央 他, 理学療法学 46 巻 Suppl.1 Page1-P-F-2-6(2019.08) ○市販の活動量計を用いた在宅脊髄損傷者の活動量の検証, 森田 智之 他, 理学療法学 46 巻 Suppl.1 Page P-101(2019.08) ○脳卒中片麻痺患者における HONDA 歩行アシストの効果と足部・足関節機能の関係, 佐藤 義尚 他, 理学療法学 46 巻 Suppl.1 Page P-B-11-8(2019.08) ○健常成人女性の Functional Reach Test における運動パターンと運動力学の解析, 佐藤義尚 他, 第24回基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019年11月30日-2019年12月1日

○地域在住高齢者における運動と認知課題の二重課題トレーニングの効果, 國枝洋太 他, 日本予防理学療法学会第5回サテライト集会, 2019.8.18(東京)

運動障害分析
理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

内部障害理学療法学特論

内部障害理学療法学特論演習

○博士後期課程（博士）

内部障害理学療法学特講

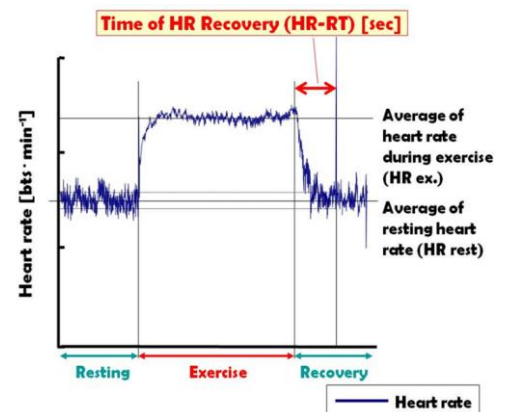
内部障害理学療法学特講演習

内部障害理学療法分野では内部障害者の体力・身体活動や虚血性心疾患等の内部障害に対する理学療法の評価と治療手技に関し研究・教授する。

関連する文献の精読や症例の臨床データの分析を通じて生活習慣病を含む臓器障害や運動器系の障害を有する者の身体活動を理解し、科学的根拠に基づいた運動処方や適切な理学療法アプローチの検討を行う。

近年の本分野の研究テーマの主なものは以下の通りである。

1. 身体活動量の評価に関する研究
2. 姿勢変化と呼吸筋力
3. 運動負荷試験時の呼吸循環応答に関する研究
4. 血液透析患者における転倒予測アセスメントツールの開発に関する研究
5. 上腹部開腹手術後の周術期リハビリテーション効果に関する研究
6. 呼吸理学療法と音楽療法の併用効果についての研究
7. ウエスト周囲長と体幹部脂肪率の関係に関する研究



運動負荷試験とその後の心拍数回復時間の分析

運動障害分析
理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

認知運動科学理学療法学特論
認知運動科学理学療法学特論
演習

○博士後期課程（博士）

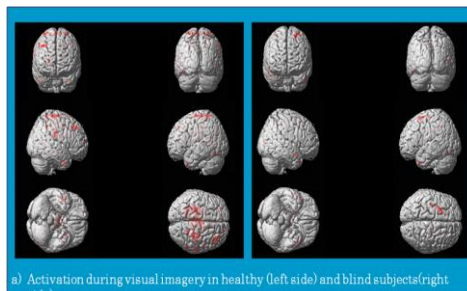
認知運動科学理学療法学特講
認知運動科学理学療法学特講
演習

認知運動科学理学療法学では、運動障害の病理の解明、これまでの評価方法の検討、ならびに理学療法の具体的な方略の開発を目的とし、随意運動の神経機構や神経系の可塑性、運動イメージ、運動学習と運動制御等に関する研究を行う。

【どんなことを学ぶのか】

身体運動機能やその障害ならびに認知機能やその障害に関する研究の動向を分析し、運動機能と認知機能の研究手法について多角的に学びます。また、現在の理学療法評価と運動・認知神経科学の側面から運動の問題について検討して、臨床に応用できる戦略を探求します。

＜学習のテーマ＞随意運動の神経機構、神経系の可塑性、運動イメージ、運動学習と運動制御、多感覚統合、主観的経験と身体運動の回復、行為能力の回復、認知神経リハビリテーション



運動イメージ課題における fMRI 測定による脳画像解析



fNIRS を用いた視覚誘導性運動錯覚課題中の脳血流量の測定

脳の血流量の変化を fNIRS（近赤外脳機能計測法）や fMRI（機能的磁気共鳴機能画像法）を用いて測定し、錯覚中や運動イメージ中、運動学習中に活動する脳の領域を明らかにする研究等を行っている

運動障害分析
理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

神経系運動障害理学療法学
特論

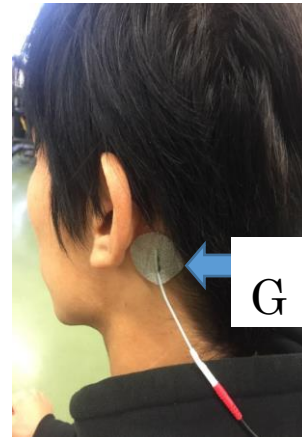
神経系運動障害理学療法学
特論演習

○博士後期課程（博士）

神経系運動障害理学療法学
特講

神経系運動障害理学療法学
特講演習

神経系障害理学療法学では、主として神経系の障害に起因する身体機能および認知機能の特性分析、治療アプローチの文献的検討、実証的臨床的研究を扱うこととする。特に片麻痺運動障害、高次神経機能障害に関して急性期、回復期、維持期の病態を考慮した評価法、治療法の適用と開発にかかる研究を行う。近年取り組んでいるテーマとしては、前庭刺激、振動刺激による姿勢制御への影響、ヴァーチャルリアリティを用いた半側空間無視モデルの生成と症例への適用、バランス改善のための遅延フィードバックの効果に関する研究などである。



筋骨格系理学療法学 来間研究室

身体機能回復 理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

筋骨格系理学療法学特論
筋骨格系理学療法学特論
演習

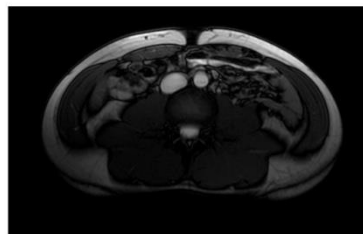
○博士後期課程（博士）

筋骨格系理学療法学特講
筋骨格系理学療法学特講演習

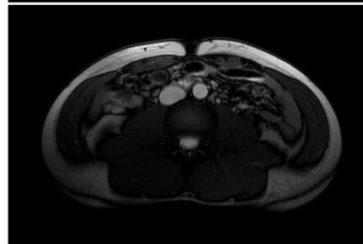
この領域では、筋骨格系理学療法に関する基礎研究および臨床研究をおこなう。健常者や運動機能障害を有している方の運動解析や理学療法の介入効果の研究を行う。

研究手法としては筋電図や筋力計、三次元動作解析、MRI や超音波を用いた筋機能および fMRI による脳活動などを用いる。

腰痛既往者画像

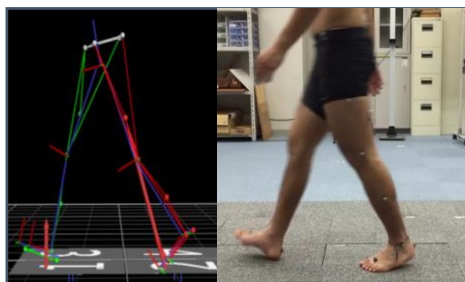


運動前MRI画像

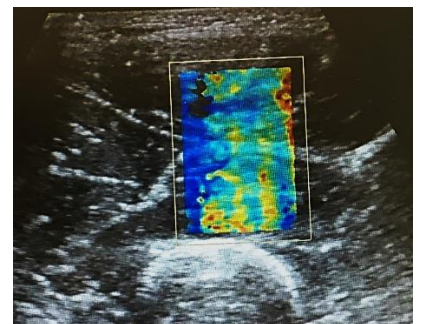


運動後MRI画像

腰痛既往者の運動前後の体幹 MRI



三次元動作解析装置による
歩行分析



Shear wave elastography による
大腿四頭筋の筋硬度測定画像

身体機能回復
理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

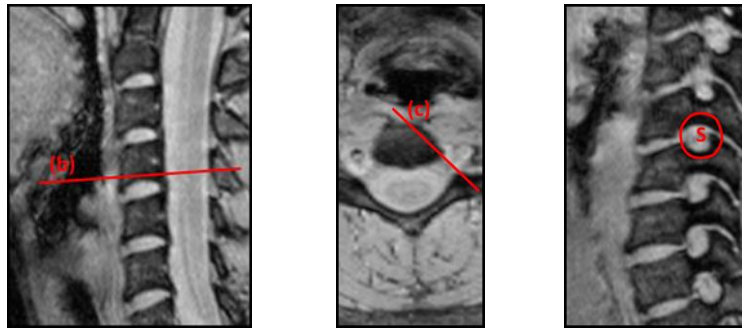
運動器理学療法学特論
運動器理学療法学特論
演習

○博士後期課程（博士）

運動器理学療法学特講
運動器理学療法学特講演習

この領域では、運動器理学療法学では、神経・筋・関節の機能障害に注目して、それらの機能や障害のメカニズム、運動器の障害に対する運動療法や徒手療法などの理学療法の効果を研究テーマとして取り上げる。

研究手法としては、MRI（磁気共鳴画像）や超音波画像を用いた画像解析、筋電図解析、筋力測定器や組織硬度計による筋機能解析などを用いる。

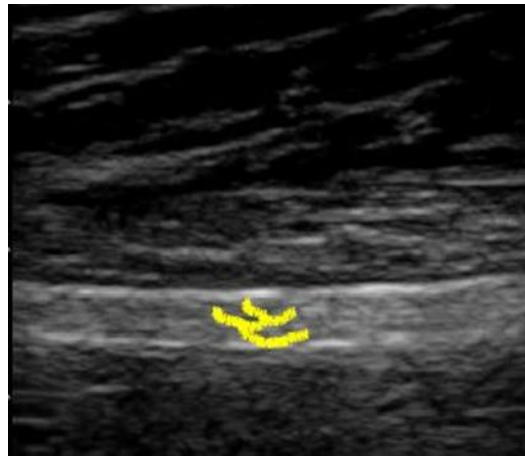


(a) 頸椎の
正中矢状断

(b) C4 底面と
平行な水平斜断

(c) C5 神経根に
垂直な前額斜断

頸椎椎間孔面積計測に使用した MRI



坐骨神経の滑走距離計測に使用した超音波画像

障害者スポーツ理学療法学 信太研究室

身体機能回復 理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

障害者スポーツ理学療法学
特論

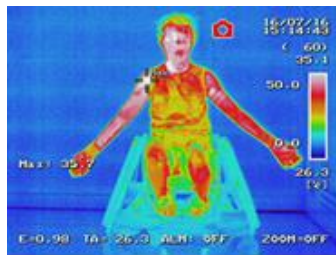
障害者スポーツ理学療法学
特論演習

○博士後期課程（博士）

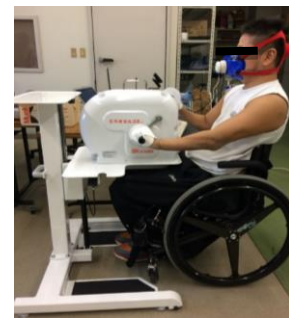
障害者スポーツ理学療法学
特講

障害者スポーツ理学療法学
特講演習

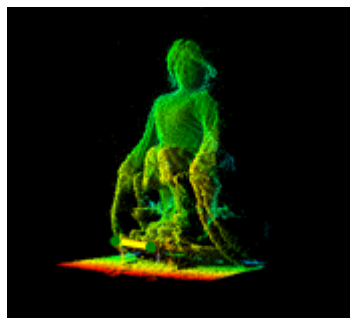
この領域では、障がい者スポーツ選手の競技力向上および障害予防を中心に、障がい者の生活支援に関することから研究テーマとして取り上げる。障がい者のスポーツ活動については身体的・心理的効果だけでなくスポーツ用具の効果、普及開発システムなど派生する視点は多岐にわたる。障がい者がよりよく生きるための活動やスポーツ活動を、当事者はもとよりそれに関わる周囲の人々や環境等のあらゆる要素から多面的に効果検証を行う。研究方法は、動作解析など運動学的手法を用いた観察研究や実践的介入研究、また調査研究などを行う。



Thermography を用いた
体表温度の研究

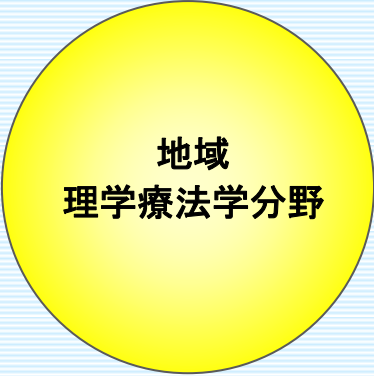


上肢エルゴメーターを用いた
呼気ガス分析



Mobile Motion Visualizer 鑑 (AKIRA)

車いす駆動解析



地域
理学療法学分野

分野科目

○博士前期課程（修士）

地域理学療法学特論

地域理学療法学特論演習

○博士後期課程（博士）

地域理学療法学特講

地域理学療法学特講演習

地域理学療法学 浅川研究室

地域理学療法学分野は、地域在住の対象者の運動・行動能力を保証する理学療法として(1)制度・政策(2)在宅・施設生活支援、(3)物理的空間整備、(4)住民の主体性形成と参加促進の4柱組み(図)で捉え、地域・在宅の生活場面で起こっている問題・課題の**評価と解決策**の考案・開発を研究する分野である。

徒手理学療法学コース（修士）

分野科目

○博士前期課程（修士）

徒手理学療法学特論

高度徒手理学療法特論

徒手理学療法学特論演習 等

徒手理学療法コース（International Manual Physical Therapy Course）は、世界理学療法連盟（World Confederation for Physical Therapy：WCPT）のサブグループのひとつである国際整形徒手理学療法連盟（International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists：IFOMPT）の教育基準に基づいた、講義と実技を行うコースである。

患者を治療するために総合的な知識およびクリニカルリーディング力を取得し、それらに基づいた臨床能力を取得することを目的とする。2年次には学んだ内容を臨床の場で実践する機会として臨床実習が設定されている。また将来的には、IFOMPTが認定する運動器徒手理学療法認定士（Orthopaedic Manual Physical Therapy：OMPT）の取得を目指す。

授業は平均週3日程度行われる。批判的に知識・技術を学ぶ能力を養うため、ディスカッションを多く用いるクラスとなる。また留学生を受け入れるため、場合によっては英語で意見を述べる能力も必要となる。

ただ単に技術を習得するというのではなく、どのように考え、現在の限界を知り、更に発展させるためにどのように我々が寄与できるのかを考えられる、チャレンジ精神に富んだ学生を希望する。

